令和６年度　うまい米づくり栽培ごよみ

良食味米（タンパク含有率5.9%以下で尚かつ、食味値77以上）を目指して

※重点管理枠内の（　月　日）に散布日を記入できます。

◎ポジティブリスト制度の導入により、農薬の適正使用を守ると共に、飛散防止対策に努めましょう。

◎毎年種子更新を図ろう!!　◎肥料、農薬は皆んなの農協へ!!

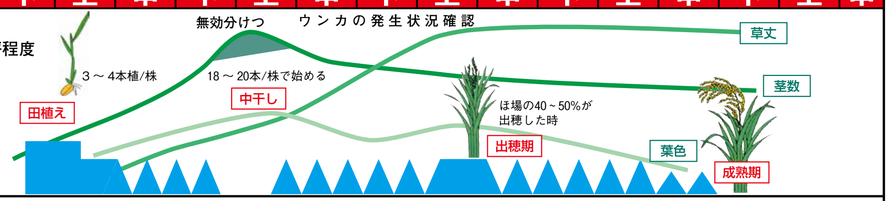
ひとめぼれ・コシヒカリ

月：4　5　6　7　8　9　10
旬：下　上　中　下　上　中　下　上　中　下　上　中　下　上　中　下　上　中

（生育ステージ）水管理

植付は
50株～60株/坪程度

夏場の高温障害による
玄米の品質低下を防ぐ
為、適期移植（早植え防
止）を遂行しましょう。



重点管理

- ○箱施薬（　月　日）
- ○本田元肥（　月　日）
- ○種子消毒（　月　日）
- ○塩水選
- ○床土づくり
- ○播種はうすまき
- ○浸種・催芽（ハト胸状態）
- 7日間止水する
- 効果安定のため散布後
- ○除草剤散布（　月　日）
- 中干しを行う。
- ○茎数は18本程度確保したら
- 田植後20日を目安とする
- ○溝切り
- 不足しないよう注意する。
- 急速に肥大するので土壌水分が
- ○開花後10日～20日間は籾が
- ○出穂（　月　日）
- ○本田防除（　月　日）
- 肥料は施肥しないこと!!
- 穂肥時期後の
- ○穂肥（出穂前18日～20日）（　月　日）
- ウンカの発生状況確認!!
- ○落水は収穫作業に支障のない範囲で遅くする。
- ○適期刈取り（　月　日）（胴割米、茶米の防止）

対象病害虫

用途	対象病害虫
苗立枯病	カメムシ類
いもち病	ウンカ類
ばか苗病	（一斉防除）
イネシンガレセンチュウ	いもち病
温湯消毒60℃で10分（JAで実施・要予約）	ツマグロヨコバイ
又は	カメムシ類
タフブロック	ウンカ類
内穎褐変病	
白葉枯病	
いもち病	
ウンカ類	
初期除草剤	
藻類除草剤	
中後期除草剤	
いもち病	
稲こうじ病	
苗立枯病	カメムシ類
いもち病	ウンカ類
ばか苗病	
イネシンガレセンチュウ	
温湯消毒60℃で10分（JAで実施・要予約）	
又は	
タフブロック	
内穎褐変病	
白葉枯病	
いもち病	
ウンカ類	
初期除草剤	
藻類除草剤	
中後期除草剤	
いもち病	
稲こうじ病	

特別栽培型

タチガレン粉剤

一般栽培型

箱当り5g

1000倍
スミチオン乳剤
＋
ヘルシード乳剤200倍

防人箱粒剤（いずれかを使用）

ツインターボ粒剤
ブイゲットプリンス粒剤

モゲトン粒（3kg粒剤・ジャンボ）

シンゲキ
ゼータプラス
ボデーガードプロ（いずれかの一剤を使用）

クリンチャー又はクリンチャーバス
バサグ＋クリンチャー（どちらかを選択使用）

コラトップ粒剤3～4kg（予防）

スタークル粒剤
豆粒剤3kg（ウンカ予防）
トライスタークル粉剤（ウンカ予防）

スタークル（粉剤・液剤）

Zボルドー粉剤DL3～4kg

ひとめぼれ・コシヒカリ
標高499m以下
田　植
↓　約65日～70日
出穂期
↓　約40日
成熟期
標高500m以上
田植期
↓　約40日～45日
出穂期
↓　約40日
成熟期

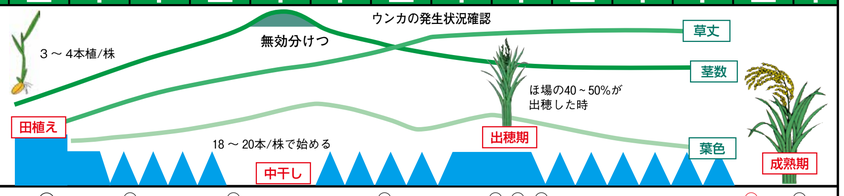
ヒノヒカリ

月：4　5　6　7　8　9　10
旬：下　上　中　下　上　中　下　上　中　下　上　中　下　上　中　下　上　中

（生育ステージ）水管理

植付は
50株～60株/坪程度

夏場の高温障害による
玄米の品質低下を防ぐ
為、適期移植（早植え防
止）を遂行しましょう。



重点管理

- ○箱施薬（　月　日）
- ○本田元肥（　月　日）
- ○種子消毒（　月　日）
- ○塩水選
- ○床土づくり
- ○播種はうすまき
- ○浸種・催芽（ハト胸状態）
- 7日間止水する
- 効果安定のため散布後
- ○除草剤散布（　月　日）
- 田植後20日を目安とする
- ○溝切り
- 中干しを行う。
- ○茎数は18本程度確保したら
- 不足しないよう注意する。
- 急速に肥大するので土壌水分が
- ○開花後10日～20日間は籾が
- ○出穂（　月　日）
- ○本田防除（　月　日）
- 肥料は施肥しないこと!!
- 穂肥時期後の
- ○穂肥（出穂前18日～20日）（　月　日）
- ウンカの発生状況確認!!
- ○落水は収穫作業に支障のない範囲で遅くする。
- ○適期刈取り（　月　日）（胴割米、茶米の防止）

対象病害虫

用途	対象病害虫
苗立枯病	カメムシ類
いもち病	ウンカ類
ばか苗病	（一斉防除）
イネシンガレセンチュウ	いもち病
温湯消毒60℃で10分（JAで実施・要予約）	ツマグロヨコバイ
又は	カメムシ類
タフブロック	ウンカ類
内穎褐変病	
白葉枯病	
いもち病	
ウンカ類	
初期除草剤	
藻類除草剤	
中後期除草剤	
いもち病	
稲こうじ病	
苗立枯病	カメムシ類
いもち病	ウンカ類
ばか苗病	
イネシンガレセンチュウ	
温湯消毒60℃で10分（JAで実施・要予約）	
又は	
タフブロック	
内穎褐変病	
白葉枯病	
いもち病	
ウンカ類	
初期除草剤	
藻類除草剤	
中後期除草剤	
いもち病	
稲こうじ病	

特別栽培型

タチガレン粉剤

一般栽培型

箱当り5g

1000倍
スミチオン乳剤
＋
ヘルシード乳剤200倍

防人箱粒剤（いずれかを使用）

ツインターボ粒剤
ブイゲットプリンス粒剤

モゲトン粒（3kg粒剤・ジャンボ）

シンゲキ
ゼータプラス
ボデーガードプロ（いずれかの一剤を使用）

クリンチャー又はクリンチャーバス
バサグ＋クリンチャー（どちらかを選択使用）

コラトップ粒剤3～4kg（予防）

スタークル粒剤
豆粒剤3kg（ウンカ予防）
トライスタークル粉剤（ウンカ予防）

スタークル（粉剤・液剤）

Zボルドー粉剤DL3～4kg

ヒノヒカリ
田　植
↓　約75日
出穂期
↓　約45日
成熟期

土づくり

○稲の収量の３分の２は地力でつくられるため、完熟堆きゅう肥の施用。（毎年1,000kg程度）又は有機質入り肥料を施用。
○冬に深耕して作土層（根の生活圏）を深くする。
○土壌改良材の施用
ミネラルG　10a当り＝140～200kg
ミネリッチ　10a当り＝ 80～100kg
土改王　　10a当り＝ 20～45kg

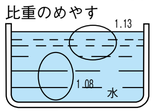
塩水選又は硫安選

	比重	水10ℓ当り食塩の量	水10ℓ当り硫安の量
うるち（無芒）	1.13	2.0～2.2kg	3.0～3.2kg
もち（無芒）	1.08	1.6～1.8kg	2.1～2.3kg

★塩水選後籾をよく洗う

◎卵を使用する場合

比重のめやす



種子消毒

タフブロック使用の場合

○イネ種子伝染性病害防除剤
微生物農薬のため化学合成農薬としてカウントゼロ。
温湯消毒との組み合わせで更に効果が安定します。
○種籾が水に浸かる最後の工程で２００倍希釈液に浸漬
①ハトムネ催芽器を使用する方は「催芽時処理」
②ハトムネ催芽器を使用しない方は「催芽前処理」

種もみ量	4kg	5kg	10kg
水の量	8ℓ	10ℓ	20ℓ
タフブロック（200倍）	40g	50g	100g

○薬液は放置せず24時間以内に使用すること。（薬液使用は１回限り）
○24時間薬液につける。
○処理籾の乾燥は陰干しを行うこと。（長時間の天日干しは効果に影響を与えるため）
○使用する培土は市販品などクリーンな物を使用する。（山から採取した培土は雑菌が繁殖する恐れがあるため）
○育苗期間は極端な低温・高温・過湿を避けること。

※タフブロックを使用すると、出芽後に種もみ表面に白～黄色のコロニー（有効成分の菌塊）が発生します。又、コロニーが発達すると、まれに赤い色素を出す特性がありますが、苗の生育に影響はありません。

適期刈り取り

○出穂後40日前後で穂首に近い部分の籾が２割程度青味が残っている頃が収穫適期です。

脱穀
○１週間～10日間かけ干し後に脱穀する。

農業情報メールのご案内

水稲生産者向けに農業情報メールを配信しています。病害虫注意報、防除情報、気象などの情報をいち早く知ることによって、対策を迅速にとることができます。
配信を希望する場合は、「nosan-seibu@pref.oita.jp」あてにお名前、お住まいの集落名をご記入のうえ、送信してください。

●本田施肥基準（10a当り）

地帯		品種	肥料名	元肥量	追肥 穂肥	追肥 施肥量	成分量 N	成分量 P	成分量 K
特別栽培米	元肥追肥型	コシヒカリ ひとめぼれ	特栽用元肥882号（８－18－12）	40kgまで	特栽用追肥047号（10－４－７－２）	20kgまで	5.2	8.0	6.2
		ヒノヒカリ		50kgまで		20kgまで	6.0	9.8	7.4
	元肥	コシヒカリ ひとめぼれ	有機エムコートまんてん（10-10-10）80日タイプ	45kgまで	追肥不要 穂肥前に葉色が一時的に淡く見えるようになりますが追肥等を施用しないで下さい		4.5	4.5	4.5
		ヒノヒカリ	有機エムコートまんてん（10-10-10）90日タイプ	60kgまで			6.0	6.0	6.0
	発	コシヒカリ ひとめぼれ	有機エムコート（10-8-8）レコアップ入り	45kgまで			4.5	3.6	3.6
一般栽培米	元肥追肥型	コシヒカリ ひとめぼれ	化成肥料（14－14－14）	40kgまで	化成肥料（16－０－16）	15kgまで	8.0	5.6	8.0
		ヒノヒカリ		50kgまで		20kgまで	10.2	7.0	10.2
	元肥	コシヒカリ ひとめぼれ	苦土入りエムコート477号 90日タイプ	30kgまで	追肥不要 穂肥前に葉色が一時的に淡く見えるようになりますが追肥等を施用しないで下さい		4.2	5.1	5.1
	発型	ヒノヒカリ		40kgまで			6.3	7.7	7.7

※側条施肥の場合は、基準施肥より２割ひかえめで施用する。
※元肥をひかえた場合はＰＫ化成を施用する。※黒ボク地帯は重焼燐10kg増施する。
※穂肥は出穂前18～20日前に施用する。（黒ぼく土壌は肥効が遅れるので早めに施用する。）

良食味米づくりのポイントとして出穂後の施肥は、食味を低下させるのでやらないこと。

緑化・硬化のポイント
緑化時の温度は22～25℃程度が最適。35℃以上の管理が続いた場合にはムレ苗になる場合がありますので、シルバーの裾を上げ風通しを良くして下さい。又、硬化時の散水については午前中にたっぷり散水しましょう。尚、日中の直射日光の強い時間帯の散水は苗を傷める恐れがありますので注意が必要です。

●ウンカ対策の注意点

1. 苗箱剤は規定量（１箱50ｇ）を確実に施用しましょう！薬剤を余らせたり、施用した後に苗箱からこぼれて量が少なくなったりすると効果が低下します。以下の作業を心掛けて規定量を確実に施用しましょう！
   (1) 田植の２～３日前までに施用するのが望ましい（2）1kg袋で20枚の苗箱に均等に散布する（3）散布した後は葉に引っかかった剤を払い落とす（4）最後に散水をして剤を培土の上に落ち着かせる
2. 出穂前にはウンカの発生量を確認しましょう！苗箱剤やヘリ防除をすり抜けてウンカが増えることもあります。出穂後にウンカが増えると薬剤防除は非常に困難です。ほ場を見回り早期に対応（追加防除）出来るようにしましょう！
   【見回り推奨時期と要防除水準】<ひとめぼれ・コシヒカリの場合>時期：７月中下旬　要防除水準：５株に１頭
   <ヒノヒカリの場合>時期：８月上旬　要防除水準：１株に１頭

危険な短翅型成虫

確認方法（株の払い落とし）
※5株連続で5箇所以上を!

推奨薬剤	量	散布時期	ウンカ	いもち病	白葉枯病	内穎褐変病
防　人	50g／箱	播種時～田植前日	○	○	○	○

●除草剤の上手な使い方と効果

○初期除草剤は散布後３～４日間は通常の湛水状態（水深３～５㎝）を保ち田面を露出させない。また、散布後７日間は落水、かけ流しはしないこと！
○ジャンボ剤の使用については、水深５cm以上での使用（浅いと薬害のおそれ）。尚、風の強い日は使用をさけて下さい。

農薬名			使用時期	使用上の注意
初期除草剤	ボデーガードプロ（1kg粒剤、ジャンボ剤）	1kg粒	田植直後～３０日（ノビエ３．５葉期まで）	1kg剤については10aあたり1kg使用
	又は	ジャンボ	田植後５日～３０日（ノビエ３．５葉期まで）	
	ゼータプラス（1kg粒剤、ジャンボ剤）	1kg粒	田植直後～３０日（ノビエ４葉期まで）	1kg粒剤を田植同時散布する場合、高温条件下や麦等の後作は薬害が生じることがあるので注意してください。
	又は	ジャンボ	田植後３日～３０日（ノビエ４葉期まで）	
	シンゲキ（1kg粒、ジャンボ・豆つぶ）		田植直後～３０日（ノビエ２．５葉期まで）	
中後期除草剤	バサグラン（粒剤・液剤）	どちらかを選択使用	田植後１５日～５５日（粒剤） 〃　～５５日（液剤）	ヒエには効果なし 落水して散布する 部分散布も可能 散布後５日間は入水しないこと！
	＋			
	クリンチャー（1kg粒剤、ジャンボ剤、EW）		田植後７日～ノビエ４葉期（1kg粒剤） 〃　～ノビエ４葉期（ジャンボ剤） 定植後２０日～ノビエ６葉期（EW）	ヒエ専用剤
	又は			
	クリンチャーバス		定植後１５日～ノビエ５葉期まで	広葉雑草や多年性雑草に対して高い効果がある 落水して散布する

※上記の除草剤は一般栽培米用としても使用可能です。　※上記以外の除草剤についてはJAへお問い合わせ下さい。
※農薬を散布する場合は、使用上の注意をよく読み、正しく使用して下さい。

●液剤使用による防除体系（10a当り）

病害虫名	散布時期	農薬名	散布量（100ℓ）
いもち病 カメムシ類 ウンカ類 ツマグロヨコバイ	（一斉防除） ７月末～８月中旬	［殺菌剤］トライフロアブル ＋ ［殺虫剤］スタークル液	100mℓ 100mℓ

※無人ヘリコプター防除についても特別栽培米用の薬剤を使用しています。（ただし１回防除のみ）

●水管理

中干しまで：浅水で間断灌水（土壌中にしっかり酸素を送り込む）
中　干　し：７～10日間（十分にできないところでは弱くても長く実施）
中干しから収穫：間断灌水（出穂15～10日前から開花期までは深水管理）
収穫直前：落水は収穫作業に支障のない範囲で遅くする

◎栽培管理日誌は正しく記入し、必ず提出して下さい。

発行／大分県農業協同組合
監修／西部振興局生産流通部

西部エリア　農産課（直通）72-6767